

【評定ランクの定義】 A: 観点に基づく中項目の実施等の状況を上回る達成と理解できるもの
 B: 観点に基づく中項目の実施等の状況を概ね達成と理解できるもの

C: 観点に基づく中項目の実施等の状況とは大きな乖離があるもの
 D: 観点に基づく中項目の実施等の状況が未実施に近いもの

No.	大項目	レベル	中項目	観点	学部/大学院	評価	評定 (A・B・C・D)	根拠資料
1	教育理念・ 学修目標	大学全体/ 学科等	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画は具体的かつ明確な形で設定されているか	学部・大学院	教員の養成の目標および各年次ごとの目標を達成するための計画が設定されている。また、2021年の教育職員免許施行規則の改正を受け、次年度(2022年度)からの教職課程委員会の立ち上げに向け検討を進めた。	B	会津大学の教員養成の目標 当該目標を達成するための計画
2		大学全体/ 学科等	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画は学生や採用権者の意見や、所在する都道府県・政令指定都市教育委員会の策定する教員育成指標との関係性の考慮が行われているか	学部・大学院	文科省が提示する「学び続ける教師像」や福島県の示す「福島県の求める教師」をもとに本学における教員養成の計画を策定し、計画に基づいた指導を行っている。	B	福島県 校長及び教員としての資質の向上に関する指標 https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/ikusei.html
3		大学全体/ 学科等	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況	(本学の教職課程において) 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画について、一人一人の学生が教職課程での学修を通じて得た自らの学びの成果(以下「学修成果」という。)や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか	学部・大学院	現時点では十分な自己点検・評価ができていないことから、次年度からの実施に向け今後、評価項目や評価方法について整備を実施する。また、学生が自らの学習成果を把握することができるよう次年度(2022年度)からの履修カルテの導入に向けて準備を進めた。	C	教職課程委員会議事録
4	授業科目・ 教育課程の 編成実施	大学全体	複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況	複数の教職課程間における授業科目の共通開設は、開設に責任を負う学科等の強み・特色を生かしつつ適切に行われているか	学部・大学院	中数・高数での共通開設はあるが、1学科しかない本学では「開設に責任を負う学科等の強み・特色を生かしつつ適切に行われているか」の評価に該当しないため、本項目は不要である。		
5		大学全体	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	ICT(情報通信技術)環境(オンライン授業含む)、模擬授業用の教室、関連する図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか	共通	ICT環境として、デジタル教科書や会津若松市内の中学校で使用されているタブレットPCを導入し、授業内で活用することができている。また、模擬授業用の教室として小講義室へ黒板やデジタル黒板を整備している。図書については、図書館に教職関連雑誌や書籍などを整備している。	A	導入している機器、図書館等の蔵書の一覧
6		学科等	教育課程の体系的性	法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか	学部・大学院	必要な授業科目が開設されている。また、教育職員免許法施行規則の改正に伴い、2022年度以降の入学生より1単位以上の開設が必須となったICT科目について、本学がコンピュータ理工学を専門とする大学であることから1年前倒し、1単位増となるよう「情報機器の活用に関する理論と方法」の新設に向けた計画を策定した。	A	履修規程別表

No.	大項目	レベル	中項目	観点	学部/大学院	評価	評定 (A・B・C・D)	根拠資料
7	(授業科目・教育課程の編成実施)	(学科等)	(教育課程の体系性)	教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか	学部・大学院	2018年度のコピュータ理工学部の大規模なカリキュラム改定時に各科目の実施内容について整備を行っており、現在は従来のカリキュラムを継続している。	B	履修規程別表
8		学科等	ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	教員として身につけることが必要なICT活用指導力の全体像に対応して各科目間の役割分担が適切に図られているか	学部・大学院	コアカリキュラム対応表を活用することで各科目の役割分担を整理し、ICT活用指導力を幅広く学ぶ機会を用意している。	B	コアカリキュラム対応表
9				到達目標や学修量が適切な水準となっているか	学部・大学院	大学の規定に基づいて運用されている。	B	シラバス
10		学科等	いわゆるキャップ制の設定状況	1単位あたりの学修時間を確保する上で有効に機能しているか	学部・大学院	教職課程関連科目は自由科目としているためいわゆるキャップ制の適用外となっているが、専門科目等も含めカリキュラムの配置を工夫することで教職課程を履修する学生の学習時間の確保に努めている。	B	Campus Guide
11		学科等	教育課程の充実・見直しの状況	学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	学部・大学院	次年度(2022年度)より実施のため評価なしとする。法令・通知等を踏まえて適切に教職課程の見直しを行っている。	—	教職課程委員会議事録
12		授業科目	個々の授業科目の到達目標の設定状況	法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか	学部・大学院	全ての教職科目についてコアカリキュラムに対応したシラバスを作成し、シラバスに則った授業が行われている。	A	教職課程委員会議事録
13		授業科目	シラバスの作成状況	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されているか	学部・大学院	学内のルールに従ってシラバスの作成を行っている。	B	シラバス
14		授業科目	アクティブ・ラーニングやICTの活用など新たな手法の導入状況	授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか	学部・大学院	非常勤講師が担当する授業も含め教職科目の中でアクティブラーニングやICTを活用した授業を実施している。効果的な授業実施に向け、タブレット端末やアクティブ・ラーニングにおいて学生同士のコミュニケーションが円滑に進むよう飛沫防止用のアクリル板の購入を行った。	A	シラバス
15		授業科目	個々の授業科目の見直しの状況	学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	学部・大学院	前年度の授業評価アンケートの結果を活用し、随時授業の改善を行っている。	A	シラバス
16	(授業科目・教育課程の編成実施)	授業科目	教職実践演習及び教育実習等の実施状況	教職課程において特に重要な役割を果たす教職実践演習、教育実習(学校体験活動含む)は、事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与の下で適切に行われているか	学部	コロナ禍の影響により教育実習先へ訪問することができなかった。次年度(2022年度)の実習に向けて、会津若松市内に教育実習校を確保した。	B	シラバス
17	学修成果の把握・可視化	大学全体	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされているか	学部・大学院	成績評価について大学の規定に基づいて実施しているが、今後授業科目ごとの達成水準との関係について明らかにすることが求められる。	B	Campus Guide 大学ホームページ
18		学科等	成績評価に関する共通理解の構築	同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合に成績評価の平準化を図ることができているか	学部	教職科目では同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講していない。専門科目等では成績評価の標準化を図っている。	B	シラバス

No.	大項目	レベル	中項目	観点	学部/大学院	評価	評定 (A・B・C・D)	根拠資料
19	(学修成果の把握・可視化)	学科等	教員の養成の目標の達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況	教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されており、それがどの程度達成されているか	学部・大学院	学務システム等を用いて各自が免許状取得に向けた単位取得状況等の達成状況を知ることが可能となっている。また履修案内等で必要な案内を明示している。	B	履修カルテ
20				教職実践演習に向けた「履修カルテ」を適切に活用できているか	学部	次年度(2022年度)からの履修カルテ導入に向け計画を立てている。	C	履修カルテ
21		授業科目	成績評価の状況	各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的又は定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・評語に反映することができているか	学部・大学院	発言、文書記述、レポート、試験等の多様な手法を用いて授業科目の達成度を評価した。	B	Campus Guide 大学ホームページ
22				公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか	学部・大学院	シラバス等に成績評価の観点・達成水準を示し、それに基づいた成績評価を行っている。	B	Campus Guide 大学ホームページ
23	教職員組織	大学全体/ 学科等	教員の配置の状況	教職課程認定基準（平成13年7月19日教員養成部会決定）で定められた必要専任教員数を充足しているか	学部・大学院	必要専任教員数を充足している。また基準に基づいた必要定員を確保するよう毎年次年度の計画を立てている。	B	教職課程変更届 (前年度分)
24		大学全体/ 学科等	教員の業績等	担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況	学部・大学院	教職課程認定審査の確認事項等に基づき採用教員の研究実績を確認している。またシラバス等に学校経験等について記載している。	B	課程認定時の教育 研究業績書、履歴 書等
25		大学全体/ 学科等	職員の配置状況	教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置できているか	共通	事務処理実施にあたり必要な職員数は確保できている。実務担当者が1名であることから、後任者への知識の継承のため業務引継書の充実を図っている。	B	教職課程委員会規 程
26		大学全体/ 学科等	FD・SDの実施状況	いわゆる教科専門の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身に付けさせるためのFD・SDが確実に実施されているか、適切な内容が実施できているか、実際に参加が確保できているか	学部・大学院	大学のFD活動のほか、教職課程担当教員は専門領域のFD活動に積極的に取り組んでいる。また事務職員についても、大学で実施するSD研修や教職課程に特化した研修に積極的に参加することで知識の拡充を図っている。	B	実施結果の一覧 (新規作成要)
27		授業科目	授業評価アンケートの実施状況	個々の授業科目の見直しに繋がるFDの機会を活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか	学部・大学院	大学全体で授業評価アンケートを実施することで、授業科目の見直しに繋げている。	B	授業評価アンケート 集計結果
28	情報公表	大学全体	学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況	法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行えているか	共通	教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた項目について大学ウェブページを使用して情報公開している。	B	大学ホームページ https://u-aizu.ac.jp/curriculum/undergraduate/guide/teaching2.html
29		大学全体	学修成果に関する情報公表の状況	大学が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかを、エビデンスとともに説明できているか	共通	エビデンスを伴った説明ができるよう検討を開始した。	C	履修カルテ集計結果
30		大学全体	教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況	根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の評価書を公表することができているか	共通	自己点検・評価を実施していない。次年度(2022年度)からの取り組みとする。	C	自己点検結果

No.	大項目	レベル	中項目	観点	学部/大学院	評価	評定 (A・B・C・D)	根拠資料
31	教職指導 (学生の受け入れ・学生支援)	大学全体/ 学科等	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	教職課程に関する積極的な情報提供の実施ができていますか	共通	教職課程を履修する上での注意事項等を説明した動画の作成や教員採用試験合格者体験記のホームページへの掲載など教職課程に関する情報提供を積極的に実施した。	A	Campus Guide 大学ホームページ
32				教員の養成の目標に照らして適切に学生を受け入れているか	共通	1年次及び2年次に教職課程ガイダンスを行うことで学生に対して教員養成の意味をアナウンスし、履修者を受け入れている。	B	免許状取得者数 教職科目履修者一覧
33		大学全体/ 学科等	学生に対する履修指導の実施状況	必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修に当たって学修意欲を喚起するような適切な履修指導が行えているか	共通	教職課程の教育の基礎的理解に関する科目等の専任教員2名と学生課の教職担当事務職員1名を学生の履修関連相談先として設定し、教職課程の履修に当たっての情報提供等を行っている。また学生の意欲に応じた随時履修相談を受け付けている。	B	ガイダンス資料、 教職Webページ
34				「履修カルテ」を適切に活用できているか	学部	履修カルテの導入が遅れていることから、次年度(2022年度)からの導入に向け検討を進めている。	C	履修カルテ集計結果
35	大学全体/ 学科等	学生に対する進路指導の実施状況	学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか	共通	教職課程の教育の基礎的理解に関する科目等の専任教員より適宜機会をとらえて採用試験の情報、教職の情報を提供している。学生の採用試験の受験状況などを把握し、受験校の紹介や公立学校の採用試験に関する指導をすることで学生の就職先決定を支援した。	A	免許取得者の就職先の一覧	
36	関係機関等との連携	大学全体	教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況	教員の採用を担う教育委員会や各学校法人と適切に連携・交流を図り、地域の教育課題や教員育成指標を踏まえた教育課程の充実や、学生への指導の充実につなげることができているか	共通	従来までは母校による実習としていたが、会津地域の教育課題や教員育成指標への理解や実習中の学生へのきめ細かい指導を目的として、次年度(2022年度)から近隣市町村での教育実習を計画し地域の教育委員会と連絡・調整を行った。	B	所在する地域の学校や教育委員会等に対するアンケートやヒアリング等の集計結果
37		大学全体	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施につなげることができているか	共通	実習校や教育委員会と連携・協力を踏むことで、例年、支障なく教育実習が可能となっている。	B	所在する地域の学校や教育委員会等に対するアンケートやヒアリング等の集計結果
38		大学全体	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	学校体験活動や学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか	共通	大学から学生へ地域のスクールサポートティーチャーに関する情報提供を行ったことにより、有志の学生は学校現場に入り学習指導員として積極的な活動ができている。また大学と会津若松市内の学校現場をオンラインで接続し、学生による教科指導を行った。	A	会津若松市でのボランティアについてのドキュメント

No.	大項目	レベル	中項目	観点	学部/大学院	評価	評定 (A・B・C・D)	根拠資料
39		大学全体	学外の多様な人材の活用状況	学外の諸機関との連携の下、教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務経験のある教員又はゲストスピーカー等として活用することができるか	共通	実務経験のある教員を非常勤講師として雇用してはいるものの、ゲストスピーカーのような活用には至っていない。予算等も踏まえて今後の活用に向けた検討を行う。	C	非常勤講師の経歴の一覧